

2022年度 事業報告

施設名 玉堤つどいの家

1 利用状況

事業種別： 生活介護 定員 13人 利用者数 12人

(1) 障害支援区分

区分6	10人	区分5	2人	区分4	0人	区分3以下	0人
計	12人						

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3～7級	なし	
愛 の 手 帳	1度	1人				1人
	2度	4人				4人
	3～4度					0人
	なし	6人	1人			7人
計		11人	1人	0人	0人	12人

(3) 年齢、性別

10代以下	0人	40代	1人
20代	1人	50代	4人
30代	6人	60代以上	0人
計		12人	

男性	7人
女性	5人
計	12人

2 事業実施状況

(1) 活動・支援の内容

概要

- ・ 開所日数 243 日、延べ利用者 2664 人、一日平均 10.9 人となった。利用率平均は 84.3% で、昨年同様、利用率は 8 割台（前年度比 -0.5%）となった。
- ・ 利用者 1 名の退所（7/1）があり、都外の入所施設職員の見学受入れや退所後のフォローを行った。
- ・ 職員 1 名が新型コロナウイルスに罹患した（7/15）。若年層ではあったが、重症化してしまい回復までに時間がかかった。また、後遺症（味覚障害）もしばらく続き、検食ができなくなる等、業務にも影響が出た。
- ・ 保護者 2 名（12/6・11）、利用者 2 名（12/8・9）、職員 1 名（12/12）が新型コロナウイルスに罹患した。保護者からの家庭内感染で、施設内感染とはならなかったためクラスター発生は阻止できた。また、同時期に別の感染症に罹患した職員 1 名（12/9）がいたため長期間人員不足となり、勤務変更や他事業所から応援をもらいつつ事業を継続した。今一度、感染対策を見直し、備品を一新するなど感染対策を徹底した。
- ・ 利用者の発熱や保護者の転倒による負傷が相次いだ。介助困難な状況に陥るケースや短期入所の緊急利用が想定されたため、家庭へのフォロー、ヘルパー事業所や相談支援事業所との連携を行った。今後も、利用者が安心して通所を継続できるようフォロー体制を整備していく。
- ・ 2 月から、グループホームの利用を開始した利用者 1 名がいた。他にもグループホームへの入所希望者が増加しており、様々なサービスを活用できるよう今後も支援していく。

*行事等	*1日の基本プログラム
<p>4月 なし</p> <p>5月 誕生会(17日)、自衛消防訓練(31日)</p> <p>6月 全体レク(28日)</p> <p>7月 誕生会(1日)、暑中お見舞い(27日)、PCR検査</p> <p>8月 誕生会(30日)、オンライン鑑賞会(31日)</p> <p>9月 GHきぬた販売会(10日)</p> <p>10月 誕生会(26日)</p> <p>11月 区民ふれあいフェスタ(21日)誕生会(29日)、 駒大ボラ交流会(30日)</p> <p>12月 誕生会(20日)、全体レク(27日)、PCR検査</p> <p>1月 誕生会(24日)</p> <p>2月 誕生会(21日)、東北沢との交流会(28日)</p> <p>3月 誕生会(28日)、全体レク(29日)</p>	<p>8:30 職員会議</p> <p>9:30 利用者来所</p> <p>10:10 朝の会、日中活動 (途中水分補給)</p> <p>11:00 トイレ・食事準備(職員昼食)</p> <p>11:30 前半昼食・歯磨き・トイレ</p> <p>12:10 後半昼食・歯磨き・トイレ</p> <p>13:00 昼休み</p> <p>14:00 自由時間</p> <p>14:30 帰りの会</p> <p>15:30 利用者退所</p> <p>15:45 職員会議、館内清掃・消毒</p>
*日中活動	
・ 染め	<p>布に動物や食べ物等の型抜きで糊を置いてデザインし、染料で染め、巾着等の製品を作成した。販売会も少しずつ開催されたこともあり、直接手に取っていただき巾着やトートバックを気に入ってもらえることが多かった。</p>
・ マーブルング	<p>水を張った容器に染料を落とし、その上に用紙を浮かせ、幾何学的な模様を写す。ポチ袋等として商品化。販売会自体は少なかったものの、年末に向けてポチ袋の購入希望が多く見られた。</p>
・ 体操	<p>ストレッチやマッサージ、ラジオ体操等を実施した。理学療法士には電動車椅子新調の方のずり落ち防止の姿勢やクッション素材等アドバイスを受けた。</p>
・ COM	<p>カードやiPad等の様々なツールを使用し、コミュニケーションの方法や技術の向上を図った。また、関係機関への情報共有がスムーズにできるよう資料作成も行った。</p>
・ 美化	<p>所内の整理、備品の在庫チェックを中心に実施した。コロナ禍以前から使用しているパーテーションを一新したり、不用品の処分等も適宜行った。</p>
・ 広報	<p>広報紙の編集と作成、発送作業を実施。担当利用者を中心に企画会議を実施し、Facebookの確認も毎月実施できた。</p>
・ 映画会	<p>誕生月の利用者のリクエストによる、映画・お笑い・アニメ等の映像鑑賞。年度の後半はプロジェクター等の機器が接触不良のことが多く、楽しみが半減してしまうこともあったので、改善していく。</p>
・ カラオケ	<p>PC・TVを使用して、利用者のリクエストに沿った曲や映像を流し、手拍子や拍手、楽器を鳴らして楽しんだ。</p>
・ ミーティング	<p>活動内容の検討等、様々な意見を交換し合う。アフターコロナ後の意見も色々と挙がっていた。</p>
・ フリー	<p>各自のやりたいこと(絵画・TV視聴等)を可能な範囲で実施。中には将来の生活について選択肢を挙げたり、必要なことを具体的に考えたり、職員と話し合う場面も多く見られた。</p>
・ セミナー	<p>利用者からのリクエストを基に各回テーマを決め、みんなで知識を深めた。「スイーツ」「ラーメン」等のテーマを取り上げ、職員が撮影した動画を視聴することもあった。</p>
・ アート	<p>本物のような幹から枝葉を広げ、四季折々の作品を作成して装飾した。</p>

(2) 地域交流

- ・ コロナ禍で規模を縮小して「YK会のクリスマス会」はご招待いただいたが、当所にて感染者が発生してしまい不参加とした。
- ・ 規模を縮小して開催された「玉堤小フェスタ」では、言語の発声が難しい利用者が多く当所や障害理解促進のため、コミュニケーションのツールとして利用者の文字盤やトーキングエイド等の紹介を展示した。また、口話や手話等でコミュニケーションを取る利用者もいるため、小学生たちに手話への関心を持ってもらえるようミニ手話体験コーナーを実施した。
- ・ 「玉川支援ねっと」では昨年からのオンライン会議を継続しつつ、アート作品の巡回展示を2カ所で行い、より多くの方々に見ていただくことができた。
- ・ 「区民ふれあいフェスタ」には2グループに分かれて、久々利用者も参加した。

(3) 家族、関係機関との連携等

- ・ 昨年同様、電話や文書等で丁寧に意向や様子等を確認するように努めた。次年度からは意向を確認しながら徐々に面談形式も再開していく。新たにグループホームを利用開始した利用者に関しては、関係者と入念に情報共有を行ない、次年度もケース会議等を継続していく。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

- ・ 夏のボランティア体験(夏ボラ)、介護等体験生(教職員養成課程)、田園調布学園、セントメリー学園(年2回)等、全て中止となったが、今年度も駒沢大学ボランティアサークルの学生とはオンラインを活用して交流ができた。
- ・ 光明学園実習生(1名)・利用希望の見学者(2名)や他施設へ入所される方の入所先施設職員の研修等の受入れ(1名)は、適宜受入れを行った。

(5) 危機管理

- ・ 7月職員1名、12月利用者2名・保護者2名・職員1名が、新型コロナウイルスに罹患した。クラスターの発生はなく、直後に区の社会的検査(PCR検査)や館内消毒等も行い、他事業所からの職員の応援をもらい事業を継続することができた。
- ・ 送迎バスのリフトが動かなかった直後に当所への連絡がなく、しばらく経過してから報告を受けたため、当所が素早く対応できるよう各号車のボードに携帯番号を明記し、すぐに連絡をもらえるよう送迎会社と乗務員に再度お願いをした。また、介護タクシー業者が利用者降車後に衝突事故を起こしたため修理を依頼したとともに、送迎バス以外の利用者の遅刻・早退の乗降時も事故が発生しないよう留意することとした。

(6) 職員研修の実施

- ・ 法人職員全体では、オンラインを活用して「ごえんの会」「虐待防止」「メンタルヘルス」「コミュニケーション」等の研修、ミニサロンを実施した。
- ・ 世田谷区福祉人材センターや法人で導入したオンライン研修等を活用した。

(7) その他(苦情・事故等)

- ・ ヒヤリハット…11件(昨年度35件)
送迎の予定変更漏れ→実家とGH等、2ヶ所の帰宅場所がある方が多く予定表を色分け
給食変更の漏れ→キャンセル届けを記入し、担当職員とダブルチェック
書類配布ミス→記名を徹底し、ケース担当職員とダブルチェック
- ・ 苦情…0件
- ・ 事故…0件

3 重点課題と取り組み・成果

① 行事・活動の工夫

→ 全員の外出や会食は困難であったため、昨年好評だった各誕生日に個別で昼食メニュー選んでもらい楽しんだ。自分の順番が来るのを待ちわびている利用者も見られた。また、コロナ禍で外食をする機会が減ってしまったため、区内の福祉施設が運営しているキッチンカーに来ていただこうと問合せをしたが、都合等が合わず実現には至らなかった。次年度改めて計画していきたい。

② 利用者の健康管理・維持

→ 新型コロナウイルスの情報収集し、流行に素早く対応できるようにしていたが、利用者・職員の感染者が発生してしまった。保護者の受検結果が出てから利用者に通所してもらったり、体調不良者が判明した場合は、念のため別室に移動してもらい固定の職員で個別対応し媒介を防いだり、当所内での感染対策をしていたためクラスターの発生にはならなかった。また、新型コロナウイルス以外の感染症に罹患した職員もいてさらなる人員不足が長期間続いてしまったため、残った職員が疲弊しきってしまわないよう利用者が安心して通所ができるよう事業継続が課題だった。

③ オンライン活用

→ ホームページの内容を分かり易く掲載し、記事も写真を含めた活動の様子を毎月更新するようになったため閲覧していただける方が増えた。結果、欠員していた人材募集にもつなげることができた。また、東北沢つどいの家の利用者・職員と Zoom でおしゃべりを楽しんだり、駒澤大学ボランティアサークルの学生との交流を継続することができた。法人で導入した「サポーターズカレッジ」を活用した研修を業務の合間に実施することができ、職員のスキルアップにもつながった。